



個人面談ありがとうございました

11月16日(火)～26日(金)の「個人面談」では、お仕事等でご多用の中、夕方のお忙しい時間帯にもかかわらず、学校まで足をお運びいただき誠にありがとうございました。

さて、学級担任との面談はいかがでしたでしょうか。家庭訪問や学級懇談会がなかったため、「今年の担任と初めて話して緊張した」という方も多かったのではないかと思います。

各担任も、面談が始まるまでは、皆一様に緊張した様子でした。しかし、面談が終わり職員室に戻ってくる頃には、保護者の皆さんと直接お話できたことに充実した表情を浮かべておりました。普段の職員室よりも、会話も弾んでいたように思います。

私も廊下から面談の様子をのぞかせていただきましたが、この2年弱のコロナ禍で学校に物足りなかったもの、パズルのワンピースのようなものが見付かったように感じました。「保護者と担任、家庭と学校の関係ってこうだったな」と、少々感激した瞬間でした。



家庭と学校は「車の両輪」です

家庭(保護者)と学校(担任)は、よく車の両輪に例えられます。

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭と学校の両輪が不可欠で、そして、両輪であるからには、同じ方向を向いていかなければ(協力しなければ)いけないからです。違う方向を向いたとき、子どもたちの成長は減速してしまいます。

かくいう私も、教員生活33年間、保護者の皆さんにどれほど助けられてきたとか…。私の教員生活は、保護者の皆さんを抜きに語ることはできません。

子どもたちについて一緒に話し合い、協力し合い、支え合い、うれしかったことがあると一緒に笑い、苦勞したことを振り返り一緒に涙を流し、「保護者の皆さんがいたからこそ教員を続けてこられた」と、今改めて感じています。

テレビや新聞では、家庭と学校が対立軸のように報じられることがありますが、私は絶対にそうではない、そうであってはならないと思っています。

今回の個人面談をとおして、「これからも、しらかし台小学校の子どもたちの健やかな成長のために、家庭と学校が最高・最良のパートナーでありたい」と切に感じているところです。

